

1950 - 1959

出来事

- 1953年 日本学術会議より大望遠鏡の設置を政府に要求（5月）...P180
- 1954年 第19回国会において188cm反射望遠鏡購入予算可決（6月）
- 1954～55年 望遠鏡設置場所 試験観測...P36、図1 - 1
- 1955年 188cm反射望遠鏡をグラブ・パーソンズ社に発注（2月）
- 1956年 91cm反射望遠鏡を日本光学(株)に発注（6月）
- 1956年 最適地として岡山県浅口郡、小田郡にまたがる竹林寺山に決定（6月）..図1 - 3、1 - 23
- 1957年 敷地付近の鉱区禁止地域指定、禁猟区、保安林などの指定（1月）...P182
- 1957～59年 岡山県および地元の厚意により、敷地、水源、電力など完成
- 1958年 188cm反射望遠鏡ドーム、91cm反射望遠鏡ドーム建物工事開始（12月）...図1 - 2

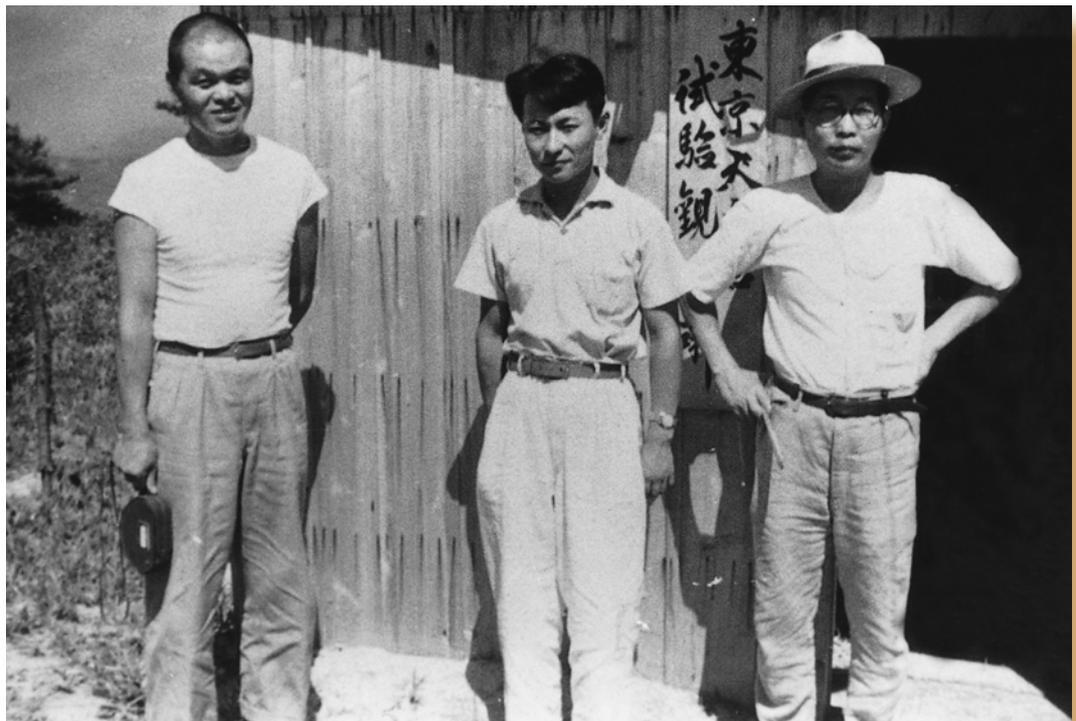


図1 - 1 試験観測小屋の前で左から本田実、清水実、藤井永喜雄の各氏

世界A級へ肩ならべ

天文博物館もテープ切る

秋空にボウカリー大ドーム

竹林寺山天文台

別面掲載 浅口郡鴨方町の東洋一を誇る「竹林寺山天文台」（東大 東京天文台岡山天体物理観測所）は秋晴れの十九日、開所式をあげ、着工以来三年ぶりに観測をはじめることになった。開所式に出席した東京天文台関係者をはじめ地元関係者もそろって完成を喜び「今後の観測研究に期待したい」とお祝いの言葉をのべた。また県天文博物館も三木知事の手で開館のテープが切られるなど竹林寺山は「世界の天文台」として晴れのスタートを切った。

○：宮地東京天文台長はじめ茅東大学長が式辞、祝辞でのべたようにこの天文台の完成によって世界にもA級の観測ができるようになった。宮地東京天文台長は「竹林寺一帯はわが国でもっとも天体観測に適している。今後この環境を維持してほしい」と地元関係者に頼んだ。石田同観測所主任も「五時以内のハタカ電球やホ



コリが立つのがもともと困る」とのべていた。また三木知事は「この天文台が宇宙時代に完成した」とは記念すべきことで今後「天文台」として天文人口の増加をはかり天科学者の現われることを期待したい」と大張り切りだった。

遠鏡を見学したあと県天文博物館前で三木知事がテープを切ったあと館内をみて回った。ついで披露パーティーに入り天文台設置に協力した人たちのテーブルスピーチ

○：今後、試験観測がつづければ来年秋から本観測をはじめめるが、着工のとき大ドームのそばに

植えられた茅東大学長のカヤ、萩原前東京天文台長のハギ、宮地同天文台長のサザンカはスクスクと大きくなり「これが立派に成長しているかも知れない」という声も出た。また開所式では天文台建設に協力した地元鴨方、金光、矢掛の三町はじめ日本光学、石川島重工業、大成建設などに宮地東京天文台長から感謝状がおくられた。天文博物館には大小望遠鏡の模型をはじめ天文学に関する資料四十数点が展示されており、一般への開放は来月一日から。

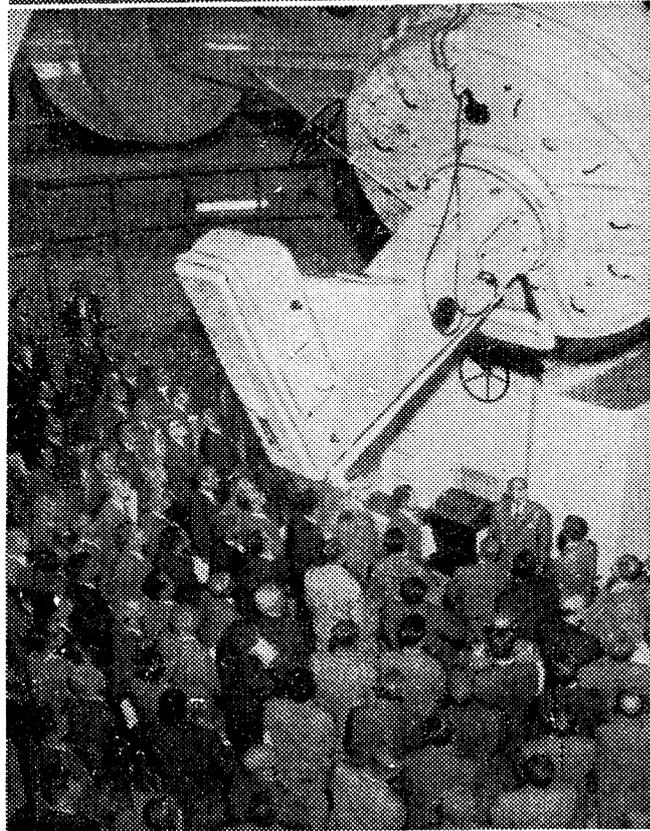


図1-4 開所式を報じる記事（読売新聞 1960年10月20日）